

■津田永忠 藩政家。岡山藩主池田光政のもと、家老や門閥譜代に憎まれながら、藩政改革を主導し“国家の柱石”。

つだながただ

寛永飢饉始・1640＝ 岡山で、藩士津田左源太の第六子(三男)に生まれる

家光鎖国完成1641＝ 1歳：

慶安御触書・1649＝ 9歳：

徳川家光没・1651＝11歳：

野郎歌舞伎始1653＝13歳： 藩主池田光政に仕え始め、

明暦の大火・1657＝17歳：

人身売買禁止1658＝18歳：

松平信綱没・1662＝22歳： この年まで、側兄小姓を勤め、

徒行頭を経て、
・・・・・・1664＝24歳： 大横目となり、加増も重ねて知行300石となる。初の評定所に参加した際、終了後も家老らが雑談してぐずぐずしていることに抗議して、家老らに憎まれ始める。

酒井忠清大老1666＝26歳： 光政の命で、儒教風の和意谷墓所を造営し、藩校石山仮学館を設けた後、

入鉄砲出女令1667＝27歳：

足利学校再建1668＝28歳： *大横目を解任されて、学校奉行になると、領民のための手習所123箇所を取立て、

ジャクシャインの乱 1669＝29歳： 藩校国学(岡山学校)を造営、

・・・・・・1670＝30歳： 閑谷学校の造営に着手、

・・・・・・1671＝31歳： 光政の許しを得て、藩営の金融制度“社倉米”を設置、

東西海運確立1672＝32歳： 藩主光政が致仕する際に、あまりに切れるため災いのもとになるとの配慮から、学校奉行の職を解かれ、それまで造営した各施設の管理を任されるとともに、閑谷村への移住を命じられ、隠退同然のなか、

三井越後屋・1673＝33歳： 閑谷学校の講堂を建設、

・・・・・・1674＝34歳： 続けて、聖廟も完成させる。この間、大洪水と禁裏造営の大出費が重なり、

談林派俳諧・1675＝35歳： 大飢饉となるも救済できずに餓死者続出するのを見ると、手習所を施粥所にして救うことを進言、

・・・・・・1676＝36歳： *藩主綱政に見直されて、諮問を受け、向こう5年間の財政再建見積書を作成、綱政はそれにもとづいて改革を断行、藩士からは恨まれるも、大坂の銀主からは絶大の信頼を得る。

藤十郎登場・1678＝38歳： 服部与三右衛門とともに、郡肝煎に任じられて巡回すると、農村疲弊の原因が土地不足にあると確信、以後、周囲の反対を押し切り、藩主を動かして、次々と大新田を開発して行く。

徳川綱吉將軍1680＝40歳：

好色一代男・1682＝42歳： 与三右衛門とともに、固辞するも、知行500石の郡代に取り立てられる。光政が死去する際には、学校諸施設の存続発展を遺言される。

堀田正俊暗殺1684＝44歳：

出世景清初演1685＝45歳：

生類憐令始・1687＝47歳： 郡代として、“天和の郡方仕置改め”といわれるほどの風紀引締めも図る徹底した郡支配体制改革を実施して恨みを買うも、この間、“社倉米”制度を改革して、藩営事業を資金面で支える。

別子銅山始・1691＝51歳： 永年の功で、知行千石となり、

世間胸算用・1692＝52歳： 新田を開発する際に、多額の資金が不足し、岡山藩名義で大坂銀主から借入しようとして家老らに反対されると、自らの印鑑ひとつで借入に成功。

奥の細道・・1693＝53歳： 番頭に取り立てられるも、讒言されたのか、藩主綱政から冷淡に扱われるようになり、郡代の職から追放運動が起こるも動ぜず、

芭蕉+師宣没 1694＝54歳：

生類憐令頂点1695＝55歳： 朝鮮通信使の寄港する波止場を整備し、参勤交代の際の風待ち湊を新設、吉備津宮の社殿造営などしながら、閑谷学校の整備も続け、

・・・・・・1699＝59歳： 備後福山検地の大事業を実施、

松の廊下事件1701＝61歳： *閑谷学校に新たな講堂をつくって、現在に至る全容を完成させた。

赤徳浪士切腹1703＝63歳： *郡代を辞任。500石加増されて、その功は報いられたが、風紀の乱れは元に戻ってしまう。

団十郎刺殺・1704＝64歳： 隠居するもなお、精力絶倫で、

・・・・・・1706＝66歳： 10番目の子四女が誕生するが、

富士宝永噴火1707＝67歳： 発病して、急逝した。

「人づくり風土記(岡山)」、